

「ひぎやああああッ♡♡♡」

「お…おお…
や…やば…い…
し…締りが…ッ!」

「やあああああッ!!
あだまごわれるッ♡
アアアッ♡ごわれるうっッ♡」

「大丈夫ですよテイオ主任
壊れないよう
ちゃんと制御してしますので(笑)」

「ひゃ♡あっ♡ああッ♡
とめでッ!とめで♡
コワれるがらどめでえええッ♡♡」

「く…そ…
こんな…締め付けで
種汁…おねだりされた…ら…ッ」

「ひやああッ♡
やああああイぐっっっっっっっっっっっ♡♡

「イクぞッ種付けでイかしてやる…!!」



「イけッイけティオ!!
種付けでイけおらあッ!!」

「んあぁあッ♡」

「ふお…おお…
搾りと…ら…れる…ッ」

「あ…♡
んあ…♡」

「ふう…堪らん…
どれだけ激しくしても
壊れないというは素晴らしい…」

「やあ…あ…あ♡」

「それは素晴らしい
その女にも協力してもらいましょうか(笑)」

「そう言えば
我々のところにも
肩書きだけの生意気な女がいますよ」

「そろそろ
別の女のデータも欲しいですね」







